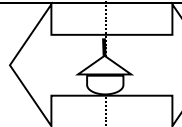


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
気温	低温	低温	低温	涼温	涼温	適温	適温	適温	涼温	涼温	低温	低温
日長	短日	短日	短日	長日	長日	長日	長日	長日	短日	短日	短日	短日
反応	自発・強制休眠	強制休眠	強制休眠	出芽	出芽・伸長	開花	開花	開花	開花	貯蔵球形形成	貯蔵球形形成	自発休眠
切り花 6～9月出荷 (基本作型)	土壌消毒・耕起	定植 ○ 催芽処理 (25℃) 定植 (蒸し込みに よる生育促進) 保温 (蒸し込みに よる生育促進) 出入口・側窓の 開け閉め (適温域の確保) 収穫はじめ 収穫 電照 (日長延長と 苞葉肥大) 収穫おわり (自然日長による 貯蔵根肥大促進) 出入口・側窓の 閉鎖による保温 (温度保持による 休眠阻止15℃以上) 出入口・側窓の 閉鎖による保温 (温度保持による 休眠阻止15℃以上) 球根掘り上げ										
9月の品質向上を狙う電照栽培		・苞葉のボリュームアップを狙った電照は8月中旬から9月中旬に実施する ・地表面での光量子束密度は $30\mu\text{molm}^{-2}\text{s}^{-1}$ 以上が望ましい									電照は初夜早朝法、暗期中断でも可 日長よりも光量が重要 電照した株の球根は翌年用いない	
 催芽処理の様子 ○催芽処理 被覆資材は出芽後の花芽形成節数等に影響する可能性あり (ビニルは花芽分化しやすく、ハイメタリックシルバーは花芽分化しにくい：地温よりも日長の影響と思われる) ○球根の形状 催芽処理する球根の形状で出芽までの所要日数が変わる可能性あり (芽の充実度) ○水管理 出芽の際は極端な乾燥を避ける(床内、施設内湿度) (枯れることはないが生育が遅延する場合あり) ○蒸し込み 施設内気温を重視しすぎて地温が上がりすぎないように注意する(高温抑制による生育遅延に注意) 突然の側窓開放は花苞のくぼみ発生を誘発する可能性あり (急激な気温変化は生育や品質にも影響を及ぼす) ○収穫 早朝の涼しい時間帯に行い十分に吸水させてから選別する (まれに、水揚げが悪い切り花が混じるため、注意して選別する) (水揚げ前の切り戻しや展着剤の添加で水揚げが効率的に行われる) ○掘り上げ 見た目より重さが大事 試し掘りを行い、貯蔵根が硬くなり黄化していることを確認する  栽培状況  充実した球根  休眠打破された株(葉が茶色く変色)												

クルクマ切り花生産における生産環境、生体反応及び作業暦